

ご意見の概要及びご意見に対する考え方

整理番号	ご意見の概要	ご意見に対する考え方
1	<p>水素をエネルギー源として使用するまでに必要な総エネルギー量（設備建設に関わる輸送等も含め）、諸費用などもキチンと計算（エネルギー収支及び費用収支の目途）していると推察するが、そのすべての計算を明らかにしてもらいたい。</p>	<p>水素については化石燃料から再生可能エネルギーまで、多様な製造源から生産することが出来、圧縮水素や液化水素、メチルシクロヘキサンのなど様々な方法で輸送・貯蔵を行うことが可能です。また、用途も運輸・発電・産業といった多様な部門が想定されます。そのため、水素の製造から、輸送・貯蔵、利用にいたるまでのエネルギー量や諸費用はそれらの選択肢により大きく変動するだけでなく、最終的には個別のプロジェクトにおける具体的な実施内容によって決定するものと考えており、こうした点から、提案者間の競争の源泉になり得る要素とも言えますので、国側が一義的に定めるものではないと考えております。</p>
2	<p>・P.4に「水電解装置を用いた水素製造コストを削減し、製造された水素を有効活用し、目指すべき社会実装モデルを構築する観点から、少なくとも以下4つの取り組みが必要」とあるが、そのうち「再エネ等の十分な導入に加え、余剰電力などの安価な電力の活用を促進する制度整備等」が水電解装置普及実現のためには極めて重要であると考え。水電解装置のランニングコストのうち電気代が相当部分を占め、安価な電力の活用ができなければ、本事業で成果上がったとしても電気代が相対的に安い海外のように普及しなくなる恐れがあると考え。</p> <p>・P.5に「以下2つの予算事業を通じて、世界最大級の水電解装置を有する福島水素エネルギー研究フィールドを、アルカリ型、PE型とも建設。当該施設を利用し、電力需給に応じ、水電解装置を用いて再エネ電力等から水素を製造するPower-to-Gasの技術開発を実施。電力市場と連動、水素の製造・貯蔵を最適化する運用システムの確立を目指している。本基金事業では、これらの既存事業の成果も活用しつつ水電解技術を確立するとともに、その社会実装を図ることを目指し、水電解装置のコスト削減に必要な、更なる大型化等に必要な追加的技術開発や実証等を行う」とあるが、この文章は「本事業では福島水素エネルギー研究フィールドでの成果の活用が主眼である」と読み取れなくもない。本事業の成果を上げる可能性を高めるためには、福島での事業に参画していない事業者にも参加の余地を与えるべきではないかと考える。その場合、そうしたメンバーの中には現在推進中の研究開発スケジュールが今回公募時期に合わないケースもあると思われ、その場合には2021～30年度の途中からでも応募を受け付け、審査で通れば、支援をするような仕組みとする必要があるのではないかと考える。</p>	<p>御指摘のとおり、水電解装置のコストを下げるだけでなく、安価な電力にアクセス出来ることが、水電解装置の普及拡大を通じた国内水素製造基盤の確立には重要であると承知しております。そのため、再エネ等の十分な導入に加え、余剰電力などの安価な電力の活用を促進する制度整備等についての検討も今後進めて参ります。</p> <p>また、本プロジェクトについては、既存事業の実施者に限らず、広く事業者等を募集させていただきたく、公募開始から締切まで十分な時間を確保させていただき予定です。追加での公募については、基金に限りがあることや、他の検討中のプロジェクトとの優先順位の調整なども踏まえる必要がありますが、柔軟に検討させていただきます。</p>
3	<p>カーリナサイクル等の利用により、総合的なエネルギー利用の効率化を行っていただきたい。</p>	<p>本プロジェクトでは、水電解装置コストの低減等を目的とし、水電解装置の大型化・モジュール化、優れた要素技術の実装、熱需要や産業プロセス等の脱炭素化実証等の研究開発を実施する計画となっており、システム全体の中で、総合的なエネルギー利用の効率化を図ることは、重要と考えております。具体的な技術開発や実証の内容については、公募を通じた事業者からの提案に基づき最終的に決定してまいります。エネルギー利用の効率化の観点も踏まえつつ、技術内容の審査等を行い、効果的な研究開発の実施に努めていきたいと考えております。</p>